

英語学科		教授	安井 美代子	大学院の授業担当 有
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	学生の授業参加意識の向上の取り組み	1996年4月－現在	受講生150名程度の概論科目では、授業の初めに前回の講義内容に関するクイズを行い、添削して次の授業で返却し、最終評価の約1割に組み込んだ。また、学期末の定期試験に加え、中間試験を行い、授業内容の理解の評価をより適切に判断できるようにしている。	
2	学生の質問を聞きだす工夫	1996年4月－現在	E-learningという新規授業は受講生が300名程度で、対面授業を行わない。教員からの連絡、学生からの質問はメーリングリストやメール、ウェブ上の連絡ボードをフルに使用した。 ゼミやその他の授業でも同様である。	
3	学生による授業評価の活用	1996年4月－現在	具体的に学生が書いた意見を紹介し、教員側の意図や、設備上不可能なことを説明している。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	Alc NetAcademnyを補うウェブ教材	2004年4月～現在	アルクの了解のもと、単語、読解などの補助教材をmoodleというCMSを載せたサーバーに準備し、E-learningで使用している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
1	“Advantages of icon-fonts in e-learning for language education/training.”(Jochen Grosとの共同発表). 日本e-Learning学会秋季学術講演会. 京都情報大学院大学	2008年11月	早期外国語教育や失語症患者の言語訓練のための教材として、パソコン上で使える絵文字の有用性について論じている。	
2	“Advantages of icon-fonts in e-learning for language education/training”(Jochen Grosと共著)『日本e-Learning学会誌』vol 9.	2009年	早期外国語教育や失語症患者の言語訓練のための教材として、パソコン上で使える絵文字の有用性について論じている。	
4 その他教育活動上特記すべき事項				
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)				
年月日		活動内容		
2004年11月		日本英語学会第22回大会開催校委員		
現在まで		日本英語学会論文審査委員		
2000年05月～2001年02月		獨協大学、三菱商事共同事業「実験教育・実験研究」		
その他				
受賞 「フルブライト奨学金(若手研究員)」(1993年)				